

第四章

リベンジ

敗者でも必ず復活できる！

第四章 敗者でも必ず復活できる！

私が初めてサイドビジネスというものを知り、取り組んだのは今から約十年前になります。

当時貧乏だった私にとっては非常に魅力のある世界であり、「ひょっとすると俺もこれで金持ちの仲間入りができるかも！」と異常なほどの興奮と期待感を持っていたのを覚えています。

この最終章では、私の辿ってきた道を少しお話させていたき、本小冊子の締めくくりにしたいと思いますが、興味のない方や退屈な方は読み飛ばして頂いても結構です。
(多くの方からもよく聞かれることですが、恥を覚悟でお話します)

私は、大阪府の堺市で生まれ育ち、ごくごく平凡な家庭で小学校、中学校、高校(商業高校)と思春期を過ごしてきました。

ただ周りとは少し違っていたのは、小学生の時にイジメに合い、中学生の時にはその反動からかグレた少年(いわゆる不良)になり、高校では真面目になろうと、サッカーや野球などのスポーツに明け暮れました。(但し全くの勉強嫌いでした)

今から思えば、一通り、良いことも悪いことも経験してきたと思いますが、周りから見ると、少し変わり者だったと思います。

そんな私が高校を卒業して初めて就職したところが、某大手スーパーの鮮魚売り場。

「何で商業高校卒業したのに、包丁持って魚を調理せなアカンねん…」と思いながら、魚臭い体になりながらも働き続けました。(やってみると結構楽しいもので、今でも魚は捌けます)

ちょうどその当時、今の妻との出会いもあり、結構ハッピーな毎日を送っていました。

確かに給料は少なかったけど、毎日充実しているし、大手の会社にも就職できた。将来は安泰だな…と思い込んでいたのです。

しかし、その会社を一年で辞めることになってしまいます。その辞める原因となったのは、就職した翌年に入社してきた新入社員にあっという間に給料を抜かれてしまったからです。(その新入社員は大学卒でしたから)

これに不満を持った私は、「そんなの不公平じゃないか！何で大卒というだけで給料が俺より上なんや！大学卒業したからといって仕事できるとは限らんやろ！」と、今から思えば世間知らず、企業の仕組みを知らなかった私は、まるで子供がダダをこねるように、仕事を続けていくことが嫌になったのです。

そして、入社から一年後、家族や周りの反対の声も全く聞かず退職したのです。「年齢や学歴で収入を決められるのはまっぴらごめん、俺を正当に評価してくれる会社を探す」と様々な会社を探し始めたのです。

そして次に勤めたのは、ある運送会社。

車の運転は好きな方だったし、将来トラック野郎にもなってみたいという野望も持っていたので、自分にはピッタリの仕事だと思ったからです。

しかし、その仕事を始めた約一ヵ月後、配送途中に事故を起こしてしまい、会社から大目玉を喰らわされたのです。

全額自分負担で弁償(毎月の給料から天引き)命令、おまけに当時私の髪はカラフルな茶髪だったので、それを指摘される始末(黒髪にしてこなかったらクビ)

「なんやねん、俺の髪型に文句つける気か？」と、またもや子供のようにダダをこねて、仕事に対するヤル気が失せてしまったのです。

「こんな会社辞めたるわ！年齢も学歴も髪型も問わん会社を探す！」と二ヶ月も経たないうちに会社を辞め、またもや仕事探し。

そして次に勤めたのがダンプの運転手。四トンダンプで採石場や土木現場を走り回る仕事でした。

この仕事は運送会社と違って比較的車に乗っている時間が長く力仕事は少なかったので、自分にとっては楽な仕事でした。

しかし……その仕事をスタートしてから約一ヵ月後の出来事。プライベートで車を運転している時に覆面パトカーに検挙され最悪なことに免許取り消し処分になってしまったのです。(何故なら違法改造している車だったからです)

免許がないとダンプも運転できないので、泣く泣く会社をやめることになりました。社会に出てから早くも三度目の退職です。

「ついてないよな…」そう思っている時というのは何故か追い討ちをかけるような出来事が発生するものです。

ダンプの運転手を辞めてからというもの私は仕事をする気が全く起きず、数ヶ月の間、ブー太郎生活を送り、当時付き合っていた彼女(今の妻)のヒモ(彼女と半同棲生活をして養ってもらっている)に成り下がっていたのです。

毎日毎日、食べて寝るだけのダラダラとした生活を続けていたのです。(今思えばよく妻は耐えてくれてたなと感謝していますが…)

そして、そんな毎日を過ごしているうちに、彼女の妊娠が発覚したのです。

その時私はまだ十九歳です。「え～、いつの　　がヒットしたんや？」と、わけのわからないことを考えながらも頭はパニック。当然ブー太郎の私を両親は認めるはずもない…

しかし黙っていても数ヵ月後には自分の子供が生まれてくる…

我慢して私に付いてきてくれた彼女は不安ながらも子供を身ごもったことを喜んでくれる…

ここで私が気持ちを入れ替えて頑張らなきゃ一生負け犬のまま人生を終えることになる…

そんな気持ちと生まれてくる子供、そしてこんな私に付いてきてくれた彼女のため、なまった体にムチを打って、仕事探しを再開したのです。

十九歳同士という若いカップルだったので、周りからは「子供が子供を産む」みたいな皮肉っぽいことも言われていましたが、とにかく頑張らなきゃいけない。

「これから気持ちを切り替えて一生懸命頑張っていきます」と両親を説得し、彼女の妊娠を期に結婚することも決まったのです。

そして仕事探しの末に、職安で「鉄筋工募集」の求人を見つけました。

待遇は、日当一万二千元、日祝休み、初心者大歓迎…「うん、なかなかいいな」と思いつつ、そこに就職することになったのです。

そこから何ヶ月かぶりの仕事を再開したわけですが、その仕事というのは異常なほどハードな肉体労働だったのです。

建築現場の仕事だったので、周りは大工さんや鳶職人などの男気ムンムンの職場、血気盛んな方たちばかりで、私が勤めていた会社の親方も強烈に怖いお方でした。

いきなり、出勤初日から怒鳴られるわ、叩かれるわで、正直半日で逃げて帰ってこようかと思うほど辛かったのを覚えています。

しかし、ここでケツを割ってしまえば、今までと全く同じことの繰り返しになるし、彼女や両親に顔向けできない、ましてやこれから父親になる自分にとって、ここは踏ん張る時だと言い聞かせ、辛く厳しい仕事にも耐えることができたのです。

そうこうしながら、彼女との結婚も無事終え、いよいよ出産時期を迎えます。年齢の割に高収入だったのですが、さすがにお金が足りない。

仕方なく大切にしていた400ccの単車を友達に売り出産費用を捻出し、晴れて父親になる日がきたのです。

生まれてきた子供(男の子)は可愛く、「あ～俺も、ついに父親になったんだな……」という実感と、父親としての自覚も芽生え、「更にこれから家族のために頑張っていこう」と心新たにしたのを覚えています。

お金はなくて貧乏だったけど、久しぶりに幸福感と充実感を持った時期でした。
初めてサイドビジネスに出会った日

そんな幸せな毎日を送っていた時のことです。ダンプの運転手をしていた時に知り合った友人から一本の電話がありました。

「信ちゃん(私のニックネームです)元気？最近どうしてるの？久しぶりに会いたいな！」というお誘いでした。私も懐かしく思っていたので、その友人と久しぶりに会うことになったのです。

私はてっきり飲みに行くのかと思っていたので楽しみにしていたのですが、昔話も適当に切り上げ、彼の自宅に招かれました。

「あれ？飲みに行くんじゃないの？」と私が言うと、彼は「今日はスゴイ話があるから、その話終わってから飲みにいこうよ」と言うので、「なんだろう？」と思いながら彼の話を聞くことになったのです。

すると彼は一言「信ちゃん、これでアメリカンドリームと一緒に叶えようぜ！」と、いきなり私の目の前に、台所用洗剤や洗濯用洗剤を出してきたのです。

「はぁ？こいつ何言ってるの？」と全くわけが分からない私。
しかしそんな私にはお構いなしに、「この洗剤の向こう側に夢があるんだよ！」なんてことを言ってきたので、「こいつ、頭おかしくなったんちゃうか？」と、益々わけがわからなくなってきました。
というより、「こいつは洗剤売りでも始めたんだな・・・はは～ん、なるほど、俺にこの洗剤を売りつける気だな？そのために今日俺を呼んだんやな」と思っていました。

しかし、私は、そんな洗剤なんか興味もないし、ましてや洗剤売りなんて格好が悪い、そんなのめんどくさい！と思っていたので、友人の話も不機嫌な態度で聞いていました。

しかし、その商品の説明を終え、ビジネスの話になると私の態度は急変したのです。途中までの話はあまり覚えていなかったのですが、最後になって「このビジネスをすることで将来年収2000万円取れる！」なんて話になっていたので、「え？ちょっと待ってよ、何で洗剤売って年収2000万円も取れるの？」と不思議に思い、もう一度最初から話を聞きなおしている私がいたのです。

もうそれからは彼の話に夢中になり、洗剤なんか関係ない、これはスゴイお金儲けの話であり、ビッグチャンスなんだ！と思い始め、そこでは、今まで聞いたことも無いような夢の話が繰り広げられていたのです。

「ひょっとして、これで俺も金持ちの仲間入りができるかもしれない・・・」このように、異常なほどの興奮と期待を抱き、気がつけば、即日に参加登録している自分がいたのです。

そして興奮が冷めやまぬうちに家に帰り、妻に一言、「俺はこれから世界を股にかけるビジネスオーナーになるんや！見てろ！俺は金持ちになるんやでえ！楽しみにしとけよ～」と異常なほどのハイテンションで話しました。

しかし、妻は冷静な目で「はぁ？あんたバカじゃないの？」って顔をしていましたが…私にとって初めて知るサイドビジネスの世界は、自分の人生観を変えるほど強いインパクトがあったのです。

二十歳の出来事、今でも鮮明に覚えています。

しかし、この出会いが後々の、どん底人生につながるとは、当時の私には知る由もありませんでしたが…

狂ったように走り出したビジネス

私が初めて出会ったサイドビジネスというのは、あるネットワークビジネス業界の最大手企業でした。

そのビジネスをスタートしてから、私が今まで会ったこともないようなお金持ちと会う機会に多く出くわしたのですが、そのことで私の中の期待と情熱のエネルギーは最高潮にまで高まっていました。

「こんないい車乗れたら最高だろうな…」「こんなに大きくていい家住めたら最高だろうな…」と、多くの成功者のライフスタイルを見たり、話を聞いたりするたびに、自分自身のモチベーションは上がり、自分は絶対に成功できるんだ！という確信に満ち溢れていたことを思い出します。

毎日毎日、紹介者やアップライン(いわゆる先輩や上司的な存在の人)と会い、ミーティングや、セミナー、イベントなどにも参加し、自分自身、非常に充実した毎日を過ごしていました。

前述したように、私は、若くして結婚した上、当時、既に子供もいたのですが、もうその時期というのは、ビジネスオンリー、夜中遅くまでミーティング、休みの日にはセミナーなど、全く家族を顧みない、そんな日々を過ごしていたのです。

「今精一杯やっていれば、将来自由なライフスタイルが手に入る」と信じてながら…

小学校時代から高校時代、社会人になって知り合った全ての友人知人に片っ端からアポイントを取り付け、何が何でも分からしてやる！登録させてやる！と、異常なまでのハイテンション、何かにとりつかれたように、目の色を変え、一心不乱にビジネスに没頭していたのです。

今思えば、その当時、私自身も情熱を飛び越え、狂気に満ち溢れていたのかもしれませんが。つまり、完全に洗脳されていたわけです。

しかし、その結果、蓋をあけてみると、全く結果が出ていない自分と、自分の周りから友人のほとんどが去ってしまっているという悲しい現実気がついたのでした。

そして、気づけば、既にサイドビジネスをスタートしてから3年くらいの時が経過していたのです。

葛藤と挫折感

その時期から、少しずつ自分自身、冷静さを取り戻し始めたのですが、それと同時に「本当に、今俺がやっていることっていうのは正しいことなのか？」という葛藤に悩まされ始めたのです。

紹介者やアップラインに相談しても、「俺も同じ経験してきてるんや、成功者になりたかったら、そんなことシビアに割り切れ、去っていく友人なんか放っておいたらいいねん・・・」という冷たい回答ばかり。

「やっぱり、成功するためには、犠牲にせなアカンもん(家族や友人知人)とか、自分自身の心を捨ててシビアにならんアカンのかな・・・でも、そこまでして成功したとしても本当にハッピーなんかな？」という疑心暗鬼に囚われたのです。

その頃から、徐々にミーティングやセミナーからも足は遠退き、ネットワークビジネスから足を洗おうという気持ちになっていました。

紹介者やアップライン、ビジネスの仲間から電話があっても、後ろめたい気持ちと、申し訳ない気持ちで、ずっと逃げていたのです。

そのうち、仲間からの連絡も途絶え、完全に孤独になり、社会に出て初めての大きな挫折を覚えました。

失ったのは多額のお金と友人・・・残ったのは借金と商品の在庫の山、そして孤独感と失望感。「もうネットワークビジネスなんか二度とやらないっ！」そう心に決めた、静内、20代前半の頃でした。

やっても、やっても、うまくいかない日々

組織販売の限界を感じ、ネットワークビジネスに見切りをつけ、前回の失敗による挫折と心の傷が癒えたかけたころ、また今度は違うサイドビジネスを探し始めました。

本当なら、本業をしっかりコツコツ頑張っていき、サイドビジネスなんて余計なものなどなくていい、と思っていたのですが、やはり、借金も作ってしまい、所帯も持っていたので、どうしても、サイドビジネスの必要性を感じていたのです。(というより、ひょっとすると、サイドビジネス中毒になっていたのかもしれませんが・・・)

それから、ネットワークビジネス以外のサイドビジネスを探して、専門雑誌等でいろいろ調べては資料請求して、いろいろと試してみました。

当時は、今のようなインターネットが普及している時代ではなかったので、健康食品や化粧品の販売、携帯電話の取次ぎ、など物流関連、販売系のビジネスが中心でした。また、今もそうですが、怪しいビジネスや胡散臭いビジネスもかなりたくさんあったことも覚えています。

私がそこでまず初めに取り組んだのは、携帯電話の取次ぎ販売でした。

しかし、これも時流に乗り遅れてしまったため、あまりうまくはいきませんでした。次に取り組んだのが、パソコン端末販売、これも最初は良かったけど、なかなかうまくいかない。

「よし！生活必需品(シャンプーやリンスなど)ならうまくいくだろう・・・」とそういったものにチャレンジするも、これまたうまくいかない。

今度こそ！と思いながら次は補正下着の販売、まさか自分が着用するわけでもなく、赤面しながら女性に営業していく・・・

結果は、張り手こそされなかったものの見事撃沈・・・

これならどうじゃ！と裏情報販売するも、ネタ切れで売れなくなってくる・・・

またまた、健康食品に立ち戻るも、自分の健康を害して途中でリタイア・・・

次は、宝石やブランドものを扱うも、親会社がどこかへ消え逃げてしまって、あえなく店じまい・・・(おまけに偽者のブランドものだった・・・)

その他もいろいろとビジネスをやってきたのですが、ことごとく、また何をやっても見事なまでにうまくいかなかったのです。

詐欺との遭遇、借金地獄への始まり

「やっぱり、自分には商売って向いてないのかな？」そう思っていた矢先に來た話が、今度は、投資、利殖の儲け話・・・

100万円預けたら、毎月の配当と、3年後には元本の10倍のお金がリターンされる・・・

なんていう、いかにも怪しい話。(冷静になって考えたらそんなうまい話があるはずありません)

でも、人間ってここまできると、面倒くさいことは考えず、一攫千金を考えてしまうものです。負けがこんだギャンブラーが一発逆転を狙うように、お金の感覚が麻痺してくるのです。

しかし、その当時、サイドビジネスでは大赤字を計上していたため、手元にお金がないのはもちろんのこと、家計費もままならないほどの経済状況になっていたのです。

消費者金融も計十社くらいから借り入れがあり、その他ローンやクレジットカードなどの返済分もある。返済の滞納や、未払いもあり、めでたく？ブラックリストの仲間入りも果たしていましたので、正直、もうどこも貸してくれない状態だったのです。

しかし、ここで引き下がってしまえば、貧乏から脱出できない・・・この投資の話は、俺にとって一発逆転の最後のチャンスなんだ、と思い込み、とにかく、なんでもいいからお金の調達をしようと、スポーツ新聞などで、自分に融資してくれそうな所を探してい

ました。

そこには、090金融や、紹介屋、システム金融などが横行しており、気の弱い私は、ひるんでしまい、そういう所からは借りませんでした。

そんな時、例の投資会社(大阪にあった)からある案件があったのです。

「静内さん、初期投資金、100万円ないんだったら、私の知り合いで信頼できる社長が金融会社をやってるので、そこで借りてはどうでしょう？私が口添えしておきますから大丈夫ですよ」と、仏様のような優しいお顔で提案してくれたので、藁をもすがる思いで、融資をお願いすることにしました。

そして、都合100万円の融資申込みをお願いしにいったのですが、実はそこというのは……トイチ金融だったのです。つまり、10日で利息が10万円という世界です。

それを知って恐ろしくなり、断ろうと思いましたが、切羽詰っていた自分には、もうこれしか他、道はない、この投資のチャンスに全てを賭ける！と腹をくくって融資をお願いしたのです。

しかし、悲惨なことに、その投資会社は3週間後、行方をくらまし、消えてしまったのです。完全な詐欺です。

でも、私には落胆している暇はありません。何故なら配当がなくなっても、借金はなくなるからです。それを知ってから急いで金融会社に出向きました。

私 「社長、社長どこに行ったか知りませんか？」

金融屋 「知らん、どうかしたんかい？」

私 「すみません、実は社長が夜逃げして配当が受けられなくなったので返済が難しくなったんです」

金融屋 「そんなこと、うちには関係ない話じゃ、ワシは に金貸したんちゃうぞ、お前に金貸したんやろうが！」

静内 「……」

私は、それにより、トータル800万円くらいの借金から、短期間の間に利子も異常なほどかさみ、トータル3000万円ほどの借金を抱えるはめになってしまったのです。

3年後に10倍以上のリターンがあると言っていた投資会社が3週間も経たないうちに消えてなくなり、それどころか、逆に10倍以上も膨れ上がる可能性がある借金を抱えてしまった自分のバカさ加減と、世間知らずには、非情なまでの怒りを覚えました。

もう、ここまでくると、手の打ちようがありません。

若干20代前半の社会経験も浅い自分に、返済し続ける力があるはずはありません。もう八方塞なわけです。月々の返済だけで、100万円近くの借金地獄……

それからというもの、毎日毎日返済の催促の嵐、当然、食費もなければ子供のオムツもミルクも買ってやれない……

毎日、ビクビクしながらの借金地獄生活が始まったのです。

こんな経験をされた方なら分かると思いますが、玄関で物音がしたり、玄関をノックする音が聞こえたり、電話がジリジリ～ンとなっただけで、ビクッとする生活、まさに毎日が地獄で、夜も寝れず、気持ちのおさまる暇はありません。

実家の親に頭を下げては、お金を少しずつ借りて食費やミルク代にあてる……

取立て屋との接触を避けるため、早朝出勤し、夜中遅くに帰宅する毎日。もう、サイドビジネス云々といっている余裕すらありません。

明日のミルク代を稼ぐため、本業(建築業)以外に、アルバイトを3つ掛け持ちし(宅配便の仕分け、夜間の土木工事等)、体力的にも精神的にもギリギリ寸前の生活で何とかしのいでいたのです。

しかし、トイチ金融はそうはいきません。

取立ての厳しさと、何よりも利息の増え方が半端じゃないので、これを何とかしなければ、一生、利息すら返済できないと思ったため、もう半ばやけくそ、腹を決めて、そのトイチ金融会社に話をしにいこうと決断したのです。

「返す気はありますけど、どう考えても、今は返済しきれません。でも、僕ができることだったら何でもさせてもらいますから、もう少し待ってくださいませんか……」そう思ってもな

いことを何故かその時、口にしてしまったのです。

すると、その社長は、意外にも僕の話聞いてくれて、
「分かった、それやったら、明日から電話の取り次ぎと、雑用やってくれ」と言い出したのです。(後で聞いた話ですが、その時ちょうど社員を探していたそうです)
条件は、元本据え置き、当初の利息分の給料、つまり、日当1万円、10日で10万円です。

内心、ホッとしたのと同時に、「やばい、どないしよう、昼間の仕事もあるし、バイトもあるし、どうしよう…」と悩んだのですが、ここで返事をしない限り、ただでは帰らせてくれないという空気を感じたので、「はい、分かりました」と答えたのです。

そこから、金融会社の電話受付兼雑用の仕事がスタートしました。
アルバイトは継続しましたが、本業の方はやめて、8ヶ月間その仕事をやりました。

しかし、働いても利息を抑えきることしかできず、元本は一向に減らない…このままここで一生利息を払い続けるためだけに働くのはまっぴらゴメン…これじゃ、完全に家畜やないか…

「やっぱり、何かビジネスをしないといけないか…」
そう思い始め、またもやビジネス情報を探し始めていたのですが、何せ、過去の散々たる失敗経験で二の足を踏まない方がおかしい。

一攫千金を狙って、一発で脱落してしまった私でしたから、どんな美味しそうな情報でも、今一步踏み込めなかったのです。

敗者復活に向けて再出発

「何でこんなことになってしまったんやろ…」過去を振り返り、深く反省したのですが、悔やんだところで、借金が減るわけでもないし、愚痴を言ったところで現状が良くなるわけでもない…

とにかく何かを始めなきゃ何も変わらないと思った私は、ビジネスに取り組む前に、自分自身を変えようと、自己啓発の本やビジネスの本を読みだしたのです。

それまで漫画やエロ本しか読まなかった活字嫌いの私が、ビジネス書や自己啓発の本を読むことになるなんて考えもしなかったのですが、切羽詰った状態の中で、必要

に迫られ、その種の本を熱心に読むようになったのです。

そこで出会った本の中で非常に感銘し、今でも私の座右の書となっているのが、成功哲学で有名なナポレオンヒル博士の著書「思考は現実化する」でした。

「人間は自分が考えているような人間になる・・・」というフレーズが私の心に突き刺さったのです。

「別に好きで今の状態になったわけじゃないけど、よく考えてみると、こうなるように無意識のうちにイメージしていたかもしれない・・・」そう思ったのです。

それからナポレオンヒルの著書を熱中して読み出すようになりました。

そして皆さんご存知のように、「ナポレオンヒルプログラム」という成功プログラム、教材がありますが、私も、そのプログラムが欲しくて購入を考えたのですが、その当時の私にとっては非常に高額に感じたもので、もちろん購入するための手持ち金もなければ、如何せん、ブラックなのでローンも通らない。

でも、自分を変えたい、現状を打破したい、もういちど復活したい、その強い思いから、私がやったことは、ナポレオンヒルの著書や、その他気に入った書籍を、自分が声を出して読みながらそれを録音し、自分オリジナルの成功テープを作ったのです。

そして、毎日毎日それを聞きながら、自己啓発をやりだしたのです。(これはお勧めですから是非皆さんやってみてください)

そうすると不思議なもので、自分の意識に前向きな変化が現れだしたのです。

そして気づいたことがあります。

それは、「自分が失敗したのは、取り組んだビジネスそのものに原因があるんじゃない、自分自身の考え方や心構えに問題があったんだ・・・」と。

それに気づいてからというもの、私は一旦、ビジネスを探すことをやめ、自分自身の成長と、自分自身を磨くため、あらゆる交流会や勉強会、セミナーなどに参加し、人と会っていくことに努力を注ぎだしたのです。

今までは、ビジネスの事業説明会や、特定のビジネスのトレーニングセミナーなどに

は参加したことはありましたが、それはあくまでも、そのビジネスをうまく進めていくためのセミナーであり、そのビジネスで扱っている商品の販売方法や営業方法、アポイントの取り方といったテクニック論に終始しがちで、自分自身の「人間としての成長」の場ではなかったのです。

特にネットワークビジネスの多くは、いくら儲けたかの、海外旅行してきたかの、高級外車買ったかの、そういった自慢話で、あおりたてるようなセミナーが多く、確かにモチベーションは高まりますが、主催者側にとっては、自分のビジネスを伸ばしていくため、強力な販売員に改造し、自分達のビジネスにとって都合の良い人間を作っていく方向に偏りがちだと感じたのです。

でも、私の求めていたものはそんなものではなく、ビジネスを通じて、自己成長し、他力本願ではなく、自分自身の力でお金儲けしたかったのです。

つまり、特定のビジネスだけに使えるノウハウやテクニックだけではなく、様々なビジネスに通用するような、そんな力を養え、身につけられる環境を探し、仕事の合間をぬっては、あらゆる場所に出向いていきました。

そうこうしているうちに、多くの人脈もでき、自分自身の師匠と呼べる人との出会いもあり、またオーナー意識も芽生えてき、多くのノウハウや知識にも触れることができ、成功するための考え方やパターンを「体」で理解し始めたのです。

それにより、自信と成功への確信も芽生えてき、もう一度、サイドビジネスにトライしてみよう！という気持ちになったのです。

そして、勤めていた金融会社の社長に頭を下げて、あと150万円の追加融資(これは社長の好意で無利息の返済期限なし、出世払い)をお願いし、その資金で、自己啓発プログラム(教材)を購入し、それと同時に、教材の販売権利を取得し、サイドビジネスとして自己啓発教材販売をスタートさせたのです。

そこから、学んできたノウハウを活用し、どんどん教材を販売していきました。

飛び込み営業から、法人営業、とにかくがむしゃらに販売しまくりました。本業を持ちながらなのでフルに動けない分、空き時間を100%使い、休みなしでサイドビジネスに打ち込んだのです。

そうしていくうちに月の収入が20万円、50万円、80万円・・・と徐々に増えてきたので、

金融会社を辞め独立を果たし、そこから更に、月収も100万円、200万円、300万円・・・と順調に増えていき、そのほとんどは借金返済に消えましたが、ついに、サイドビジネス再開後、一年半ほどで、全ての借金が清算できたのです。

この時の開放感というのは、水を得た魚といいましょうか、何とも言葉で説明しきれないほどの快感がありました。

敗者復活のシステム構築に向けて

独立後、借金地獄からも抜け出し、生活も立て直した頃、今度は、自分だけの成功だけではなく、自分が辿ってきた道と自分の経験を活かし、サイドビジネス支援の組織を作り上げようと動き始めました。

というのも、自分個人の成功より、他人の成功をプロデュースしてこそ、本当の成功だと思っていたからです。

それまでも、教材販売の仕事以外に複数のビジネスに携わりながら、もう一度ネットワークビジネスの研究にも立ち戻り、同時に全国を渡り歩きながら「敗者が復活するための仕組み」も研究していたので、教材販売の仕事にも終止符を打ち、本格的に「敗者復活ビジネス支援組織」の構築に乗り出したのです。

サイドビジネスに失敗続きの人たちがいかにして復活を成し遂げ、成功していけるか・・・または、全くの初心者が、過去の私のように危険な目に遭ったり、誇大広告や美味しそうに見える儲け話などの歪んだ情報に惑わされることなく、自己成長しながら、着実に成功していくにはどうすればいいか・・・

その考えが元になって私はドリームエクスプレスという会社を作りました。

つまり、今まで私が辿ってきた道を再現したような環境を作り出し、皆さんが遠回りして無駄な時間を浪費することなくビジネスができる環境を提供したいと思って立ち上げた会社ということです。

正直、当初は個人事業として、細々と試行錯誤を繰り返しながら進めていたのですが、いつしか全国各地に、当社の考え方や、やり方に共感、共鳴してくれた仲間が数多く

集まり、今や約7000名(二〇〇四年一月現在)の会員組織にまで成長することができました。

しかし、まだまだこれは始まりの一步にしか過ぎません。

我々もまだまだ試行錯誤の繰り返しですが、今後も更に進化していき、一人でも多くの方に最良の情報とサポート環境を提供していきたいと考えております。

私は今思います。「失敗を経験してきて良かった」と。

確かに辛く苦しい時期もあり、全てを投げ出してしまおうと考えたことが何度もありました。でも、今思えば、それも全て私の貴重な財産となっているのです。

もし、私が順風満帆で、何をやっても成功するほどの才能を持ち合わせていたなら、うまくいかない人の気持ちや失敗者の感情を心底理解することはできなかったでしょうし、ドリームエクスプレスも、そしてこの小冊子も誕生していなかったのだと思います。

この未曾有で先が全く見えない不透明な時代に生きる私たちにとって、自己責任の精神を培い、互いに支えあいながら、楽しく、そして、力強く生きていく事ができたなら、これほど素晴らしいことはないでしょう。

私たちは、苦しむために生まれてきたものではありません。

苦しむためにビジネスをするわけではありません。

幸せになるため、楽しく豊かに生きていくためにビジネスをやっていくのです。

私は過去、苦しい時代でも、決して「夢」だけは捨てませんでした。一筋の光さえ掴めば、必ず「夢」は実現すると信じていました。

しかし、今、多くの大人は「夢」を失いかけています。「夢」を追い続けることを、まるで子供じみたことのように考えます。

でも、本当はみんな「夢」を持っていないふりをしているだけで、実は心の奥底では、「夢」を実現させたいと思っているはずです。

「夢」を語ることは決して恥ずかしいことではありません。

本当に恥ずべきことは、自分自身で何も努力せず、「夢」を持っている人をバカにしたり、諦めの人生、妥協の人生を送ること、そして他人を誹謗中傷したりして無意味な人生を送ることなのです。

また、「夢」ばかり見て現実から目をそらすこともいけません。
それは単なる夢想家、空想家に過ぎないのです。

実現してこそその「夢」=「DREAM」です。

自分自身の「夢」をしっかり持ち、前向きに生きていきたいと願う全ての方にとっての、「夢の列車」を作りたい、そういう思いから、この小冊子と「ドリームエクスプレス」という名の会社が誕生しました。

是非、この小冊子を読んだのをキッカケに、「夢の実現」に向かって頑張ってくださいましょう。あなたの成功ストーリー作りはこれからがスタートです。あなたの「夢」実現を願って、GOOD LUCK！

サイドビジネスを通じてあなたの素晴らしい人生を創造していかれることを心から願っています。

